

学術書研究会へのお誘い

社会学研究室にて、社会学専攻の学生主催による学術書研究会を行っています。この学術書研究会は社会学会の公認研究会です。2019年11月に活動をはじめ、メンバーは数名ですが意欲的に活動しています。エミール・デュルケム、マックス・ヴェーバーをはじめ、偉大な社会学者たちの書籍を読むことでその思考の枠組みと格闘し、また、学生同士で討論し考察を深めることにより、あらたな知見を得ることを目的としています。挑戦する書籍は、「ひとりではなかなか手が出しにくいけど、挑戦してみたいもの」を、お互いの研究テーマと結び合わせながら選んでいます。研究会は学生メインで行い、必要があれば教授や大学院生の方にも参加していただいています。

活動記録

2019年11月～2020年3月：

エミール・デュルケム 『宗教生活の原初形態(上)』

2020年4月～2020年7月：

エミール・デュルケム 『宗教生活の原初形態(下)』

2020年8月～2020年9月：

マックス・ヴェーバー 『宗教社会学論選』

2020年10月～2020年11月：

マックス・ヴェーバー 『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』

2020年11月：

アンソニー・ギデンズ『社会学 第5版』

2020年12月～2021年1月：

アーヴィング・ゴッフマン『スティグマの社会学』

2021年2月～2021年4月：

ニクラス・ルーマン『信頼』

2021年5月～2021年7月：

ピエール・ブルデュー／ジャン・クロード・パスロン『再生産〔教育・社会・文化〕』

2021年8月～2021年9月：

ゲオルグ・ジンメル『ジンメル・コレクション』

2022年4月～：

アルフレッド・シュッツ『社会的世界の意味構成』



場所は、3号館9階社会学共同研究室にて行います。開催日時に関しては、メンバーが数名のため相談の後決定しています。開催頻度は月に2、3回です。また、参加条件として学年・専攻は問いません。参加をご希望の方やご質問などがある方は、以下の連絡先をお願いします。

代表 社会学専攻4年 大谷鈴菜 (email: a19.np5c@g.chuo-u.ac.jp)

中央大学社会学会(社会学研究室内)